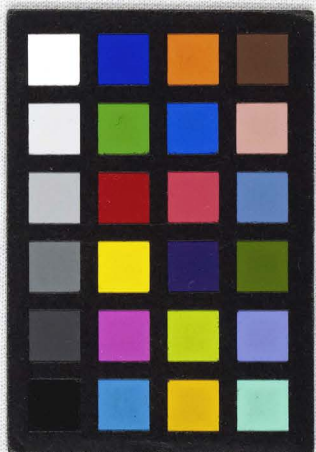
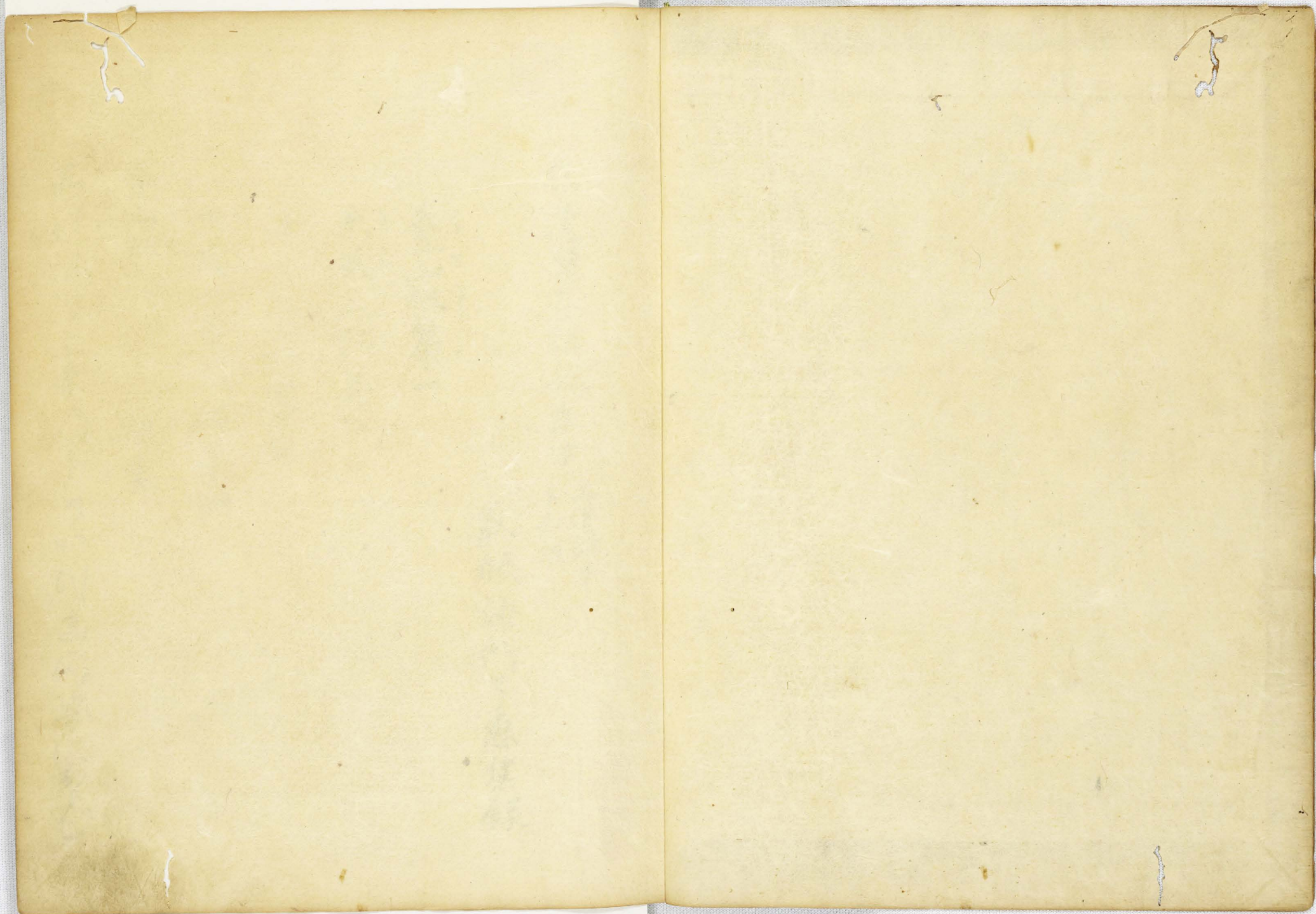


語燈錄

卷六







拾遺黑谷諸録卷中

上漢諸中
下和諸

狀欣沙門了惠集録



多クセ
登山狀第一

シスアル
示或人詞第二

ツク
津戸返狀第三

シスアル
示或女席法諸第四

多クセ
登山狀 第一
源空

ソ
不流浪三果乃らハ川道の畧に記す

きてう釋尊の出世いわたるのー輪廻四
生乃あひといひまの生れうけてあま来れ
説法とくうやー花嚴開講乃じー
ろととゆーん般着演説れ座い色川
らたす驚峯説法のいりとのそゆ
鶴林涅槃乃いりいりいり星舎衛
乃三億の家いやんるあんー地獄八
契のうこいやすんるあんーかあ急

じーくゆまにま多生曠却以てじゆ
れまい人衆にいじまして吾量却然たり
ていひくま佛教いあり釋尊の在世
いりる事いれーなるいりしとる色教法
流布のせよい事とるるかあまらる
也をまの目ーかろるあれま木れわな
いりー朝に佛法流布せー事
色欽明天皇わたりたをーあー

と一好きて世路をわたりわらへん矣天^{ユニ}
あせいのこほり利養^{リマウ}の^{コチ}欠或^{コチ}の^{コチ}妻子^{コチ}
眷属^{ケニ}に纏^ミりて思^シ愛^{アヒ}の^{コチ}例^{コチ}ふりて
ありし^{コチ}執^シ敵^テ怨^ミ類^ルありし^{コチ}腹^ヒ志^シの^{コチ}ふりや
し^{コチ}事^{コチ}の^{コチ}惣^{ソウ}してか^{コチ}れ^{コチ}て^{コチ}晝^{チヤ}夜^ヤ
朝^{チウ}暮^ホの^{コチ}住^シ坐^サ卧^ワ時^{トキ}を^{コチ}て^{コチ}な^{コチ}じ^{コチ}事^{コチ}別^{ベツ}！
を^{コチ}ゆ^{コチ}き^{コチ}海^{ウミ}に^{コチ}あ^{コチ}く^{コチ}ま^{コチ}る^{コチ}三^ツ途^ツ八^{ハチ}難^{ナン}の^{コチ}
業^{ゴウ}と^{コチ}わ^{コチ}り^{コチ}て^{コチ}進^シむ^{コチ}文^{モン}と^{コチ}わ^{コチ}一人^{イツ}一^{イツ}日^{ニチ}

中^{チュウ}八^{ハチ}億^{イツ}四^シ千^{セン}念^{ニエン}念^{ニエン}中^{チュウ}作^サ皆^サ是^シ三^ツ途^ツ業^{ゴウ}之^シ
い^{コチ}なり^{コチ}つ^{コチ}の^{コチ}こ^{コチ}して^{コチ}晝^{チヤ}白^{ヒツ}と^{コチ}る^{コチ}に^{コチ}
れ^{コチ}ぬ^{コチ}者^{モノ}も^{コチ}又^{マタ}じ^{コチ}か^{コチ}く^{コチ}あ^{コチ}け^{コチ}ぬ^{コチ}守^{モリ}り^{コチ}て^{コチ}
る^{コチ}一^{イツ}つ^ツと^{コチ}い^{コチ}ふ^{コチ}あ^{コチ}ら^{コチ}ほ^{コチ}ん^{コチ}と^{コチ}す^{コチ}る^{コチ}そ^{コチ}れ^{コチ}何^{ナニ}
一^{イツ}糸^{イト}ひ^ヒく^{コチ}る^{コチ}榮^{エイ}花^{カウ}の^{コチ}ゆ^{コチ}へ^{コチ}乃^ノ風^{カゼ}の^{コチ}り^{コチ}
や^{コチ}す^{コチ}ゆ^{コチ}へ^{コチ}て^{コチ}命^{メイ}露^ロの^{コチ}た^{コチ}の^{コチ}目^メの^{コチ}
ま^{コチ}や^{コチ}ち^{コチ}と^{コチ}ま^{コチ}さ^{コチ}る^{コチ}こ^{コチ}して^{コチ}は^{コチ}縁^縁り^{コチ}！
こ^{コチ}の^{コチ}人^{ヒト}事^{コト}は^{コチ}か^{コチ}い^{コチ}ふ^{コチ}ま^{コチ}は^{コチ}ら^{コチ}る^{コチ}こ^{コチ}して

は福母たるん申哉たより下るわび元
常の好いとよむ掛けの多属のつるあ
まねまのまを曠野のまをくしと
此山にたつるまのひの井はまのけのまを
る川のまのまのわのひのりたのまを
よ妻子眷属の家よ何れもまをまを
七珠万寶はらにみまをまを益とわ
男よまをまの後悔のまをまを

閻魔の廳にまをりおまの川よれ浅深ま
久業の輕重はらん色らり法王冠人よ
ひまをまをらん佛法流布のせりまを
はくあんを修行せまをまをまを
まをまをまの時よまをまをまを
まをまをまの出要はまをまをまを
まをまをま

りまを一代諸教のらり顕宗密大業小

宋・撰教實教論家部八宗より其義万
老小はありてわろひは方法皆空也系と
いれどい諸法實相の心然り或は五性
各別の義とてわろひは悉有佛性の理を
一系とみ竟至極の義とてわろひ各々に
甚深正義の系は論すこれに是經論乃實
諸也とて又如来乃金言也わろひは機は
のては是とてわろひは時はくはんくはん

とては後よりそのまゝわろひはわろひ
より是非をわろひはまゝとて是を教と
是を教とて偏執とてとて事なくは
説のては後れせはれとて生生死死
過度とて法のては後れせはれとて
一は菩提と證得すとて後れせはれとて
いへは是非は禪にせはれは自らわろひ
人のわろひ淺深と禪とてわろひはわろひ

力^{カラ}志^シの好^{コウ}思^シと^シん^ンの^ノと^トく^クし^シき^キま^マく^ク
を^ニ修^{シュ}行^{コウ}す^ル一^ニら^ニま^ニも^モ生^{シヤウ}死^シ解^ケ脱^{トク}の^ノ也^{ナリ}
一^ニら^ニ小^コ字^ジの^ノ字^ジす^ル人^ニか^レれ^ルを^モね^ル
こ^ニま^ニ誦^{ジュ}す^ル人^ニも^モ誦^{ジュ}す^ル愚^ウ鈍^{トン}の^ノも^モれ^ル
う^キを^シら^レし^ムゆ^ゝと^シい^ハす^ル淺^セ女^メの^ノ力^{カラ}か^レる^ト先^ニ
か^レわ^レれ^ルま^ニう^キを^シら^レく^ニ法^{ホウ}り^ニあ^リし^ム
ま^ニて^テ功^{コウ}を^シい^ハま^ニん^トす^ルま^ニを^シら^レる^ト徳^{トク}業^{ゴウ}あ^リ
ら^ウい^ハす^ルい^ハま^ニい^ハら^ウい^ハく^ニ諸^{ショ}教^{コウ}い^ハら^ウ

て^テ義^ギを^シ後^ゴせん^トあり^ニか^ニ期^キの^ノに^シら^レら^レま^シ
や^アし^メの^ノ蓬^{ホウ}萊^{ライ}亦^モ丈^{チヤウ}灑^{サイ}け^レと^シふ^ルあり^ニ三^{サン}れ^ル
山^{サン}に^シて^テ不^フ死^シの^ノ力^{カラ}か^レる^トあり^ニあ^リし^ムと^シき^キを^シ
脈^{マク}して^テ心^{シン}の^ノ力^{カラ}か^レる^ト漸^{ゼン}こ^ニあ^リら^レや^ス
と^シ思^シへ^ルも^モき^キを^シら^レる^トい^ハす^ル下^カへ^ルい^ハら^ウ
山^{サン}小^コ泰^{タイ}皇^{コウ}漢^{カン}武^ブと^シま^ニ一^ニ津^ツ門^{メン}に^シて^テ
て^テき^キを^シら^レる^トい^ハす^ル童^{ドウ}男^{オウ}外^{ガイ}女^メ
さ^サら^レら^レし^ム一^ニ月^{ゲツ}を^シら^レる^ト鼓^コ祖^ソら^ウ

七百歳サチの法ホウじしりりそ守れ時トキく
つし曇鸞トモレン法師ホウシとて今イマ佛法ブツポフの
そんばくそくあり人のいぢらぢ
を期キしつて佛法ブツポフをうけむら
し長生チヤウセイの仙センの法ホウをいひ給たまひし時トキに
菩提ホトケ流ル交カウとて三蔵サンゾウ師シより曇鸞トモレン
の三蔵サンゾウは内ウチも一イチゆして中チュウも一イチ佛法ブツポフ
の中チュウ小長生コチヤウセイ不死フシの法ホウをいひ給たまひし時トキに

そんばくそくあり人のいぢらぢ
を期キしつて佛法ブツポフをうけむら
し長生チヤウセイの仙センの法ホウをいひ給たまひし時トキに
菩提ホトケ流ル交カウとて三蔵サンゾウ師シより曇鸞トモレン
の三蔵サンゾウは内ウチも一イチゆして中チュウも一イチ佛法ブツポフ
の中チュウ小長生コチヤウセイ不死フシの法ホウをいひ給たまひし時トキに
そんばくそくあり人のいぢらぢ
を期キしつて佛法ブツポフをうけむら
し長生チヤウセイの仙センの法ホウをいひ給たまひし時トキに
菩提ホトケ流ル交カウとて三蔵サンゾウ師シより曇鸞トモレン
の三蔵サンゾウは内ウチも一イチゆして中チュウも一イチ佛法ブツポフ
の中チュウ小長生コチヤウセイ不死フシの法ホウをいひ給たまひし時トキに

此はすべし。観元量壽經よりして淨土の行
 事より始むるなり。墨寫道綽善守
 懷感甘康寺よりして、これなり。と云ふ
 法より、これなり。と云ふ。いづれをのぞく。大仙
 の法と云ふ人、これなり。又導綽禪師の安
 樂集、これ聖道淨土の二門を、これ始むる
 心なり。これ聖道門と云ふ。祇古より、煩悩を
 断して菩提より、これなり。淨土門と云ふ。淨土

じま。修行よりして、煩悩を断して菩提
 得よ。これなり。淨土宗、これなり。此
 と云ふ。觀經より、これなり。の業因一川より
 阿彌陀福九品十三定善より、これなり。なり
 月進より、これ業海より、これなり。なり
 此定善十三觀より、六日想水想地寶樹
 寶池寶樓花座像想真身觀音勢至普觀
 雜觀あり。次に散善九品より、孝養

父母奉事師長慈心不敬修十善業二一之
受持三歸具足衆戒不犯威儀三一發菩提
心深信因果讀誦大乘勸進行者九如六三
福の業と用いてそれ業因一何法さく觀經
いんより想してそれと之定散二善れ中
小りゆる法生れ行はる一何法さくいりて
ありいなる道と何法さく有縁れ行り
まじむはく印生れ心と心いんじ法り

らりて行生れもあふふかしく見法生れ
く一とくいんじくいんじん中か建は
三つく自法とつきてあまといんじゆさ
小中定散の觀門いんじふはありて
十三何り散善の業因がらくいんじて
九おありるれ定善の門一いんじとす
かつら意馬わして六塵の境一いんじ散
門小のいんじとす又心精何そし十悪の

あゝ一々川為の道とて一々人さすれども
すあまをうらむしとすれども何とて
三品の業因をえんは十悪の逆の衆生係終
一善知識にありて一聲十聲阿訖陀佛は若
号とてまゝく往生すれども一々人
けせらるるは阿訖陀人とかの釋の雄後云
一人七度還俗は悪人のいひのりたりては
概率閻魔の廳庭に於てゆきて南閻浮提

第一乃悪人七度還俗の雄後并くほりてえ
有りといふは雄後にていふは在生
時觀元量壽經をんは五逆の罪人阿訖
陀にけの名号をえんは極樂に往生す
ゆゑ一々還俗一々阿訖七度還俗す
とて一々五逆をいひて善根す
とて一々念佛十聲一々阿訖雄後
地獄に在りて三世諸佛安請のついでに

解^{トク}と高^{コウ}妙^{ミョウ}に^レけ^レい^レく^レ法^{ホウ}王^{オウ}の^レ理^リに^レを
進^{シメ}て^レい^レず^レれ^レ子^シり^レけ^レく^レお^レけ^レく^レ進^{シメ}ず^レも^レ護^ゴ
ら^レい^レり^レて^レ金^{キン}蓮^{レン}に^レれ^レく^レい^レじ^レの^レ法^{ホウ}の^レ步^フ
い^レん^レや^レ七^{シチ}度^ト還^{エン}俗^{ゾク}に^レゆ^レえ^レん^レを^レや^レい^レん
や^レ二^ニ形^{カウ}念^{ネン}佛^{ブツ}せん^レを^レや^レ男^{オウ}女^{ニョ}貴^キ賤^{ケン}行^{コウ}住^{ジュ}坐^サ卧^ワを
え^レる^レも^レい^レ時^ジ處^チ諸^{シュ}縁^{エン}を^レ備^ビせ^レん^レと^レ修^{シュ}を
身^ミの^レつ^レく^レす^レ乃^ナ至^シ條^{ジョウ}終^{シュウ}に^レ生^{シヨウ}死^シ願^{ガン}未^ミ了^{リョウ}
の^レう^レれ^レく^レり^レけ^レえ^レり^レと^レ掃^{ソウ}嚴^{エン}の^レ先^{セン}德^{トク}の

此^{コノ}中^{ナカ}に^レ後^{コト}の^レ由^ユ申^{マウ}す^レる^レ所^{トコロ}や^レ又^{マタ}善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}
の^レ觀^{カン}經^{キョウ}と^レ釋^{シヤク}して^レの^レ後^{コト}に^レ婆^ハ婆^ハの^レ化^ケ主^{シュ}
る^レ諸^{シュ}に^レう^レう^レゆ^レい^レの^レ後^{コト}に^レ淨^{ジヨウ}土^トの^レ要^{ヨウ}門^{モン}を
説^{セツ}く^レい^レ安^{アン}樂^{ラク}の^レ能^{ノウ}人^{ニン}別^{ベツ}意^イの^レ弘^{コウ}願^{ガン}を^レ何^{ナニ}に^レ
と^レれ^レ要^{ヨウ}門^{モン}と^レい^レふ^レる^レに^レ觀^{カン}經^{キョウ}の^レ宣^{セン}教^{コウ}二
問^{モン}う^レ進^{シメ}也^ヤ宣^{セン}い^レは^レれ^レり^レり^レの^レ法^{ホウ}を^レそ^レの^レ宗^{シュウ}
の^レ一^{イチ}散^{サン}い^レは^レら^レる^レ思^シ惟^イ廢^{ヘイ}して^レ善^{ゼン}を^レ修^{シュ}す
こ^レの^レ二^ニ行^{コウ}と^レい^レて^レ生^{シヨウ}を^レと^レ覺^{カク}伏^{フツ}孫^{ソン}の

ゆ也弘願といふ大經小くくつて一切善息
乃九丈のしほろく事とらんとれふ阿弥陀
佛の大願業カに乗して増上縁とせむとふ
事あり又りけの密意弘深めて教文
そりて三賢十聖とりてうつふ
こふり何んやんやん信外の輕毛也
ゆり自遊とらんやんそんたんとれ
釋迦の方にて發遣一跡隨がのく

小りの来迎一跡ふありやん一とらんと
ゆわ小くくつて善んやんゆり志れい定
善散善弘願乃三門をく結りるれ弘
願といふ大經一云設我得佛十方衆生至心信
樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺唯
除五逆誅謗正法之り善道釋して曰
若我成佛十方衆生稱我名号下至十聲
若不生者不取正覺彼佛今現在世成佛當知

本誓重願不虛衆生稱念必得往生云觀經
乃宣散兩門云之此に引て佛告阿難汝好
持是語云者即是持无量壽佛名云此
是す云なり云は云れ云願乃心也又云なり云此
經の眞身觀云は云阿旃陀身色如金山相好光
明照十方唯有念佛蒙光攝當知本願寂
為施云又云は云れ云願のゆ云かり云阿旃陀
經云は云不可云なり云善根福德因緣得生彼
中

國若善男子善女人聞說阿旃陀佛執持名
号若一日若二日乃至七日心不乱其人命
終時心不顛倒即得往生云は云れ云文云一云六云方
小たのく恒河沙の佛ゆ云くて廣長舌相を
出云してわ云す云ゆ云三千大千世界云に云あ云り云は云れ云
誠實云は云事也信云せ云る云證誠云は云後云り云又
さ云此の願のゆ云也又般舟三昧經云は云は云れ云
跋陀和菩薩阿旃陀云は云は云れ云は云れ云は云れ云は云れ云は云れ云

法を都てふかのくわじりくさせ阿祇陀
りけの始りくわ回り来生せんをえん
とれはしりい名を合してやすし事ある
かのくわくわくわく國に來生する事
この始りくま又放願のじ祇陀れわ
つゝの始り又立臺山の大聖竹林寺れ記
小い法照禪師清涼山の始りて大聖
竹林寺いりり二人の童子あり一人

と善敗さつ一人の難陀とふれこの
童子法照禪師とみりひきて寺れり
て漸に誨堂いりりてえんま普賢菩薩
元板の眷属に圍繞せし坐し始り文
殊師利の二万の菩薩に圍繞せし坐
始り法照礼していりていりていり
未法の元丈いりまの法と修す文殊師
利にての始りくなんらそ念佛せよ

海^{ウミ}に^シて^ハ時^{トキ}に^ハ法^{ホウ}照^{シャウ}又^{マタ}も^ヒて^ハい^ハく
海^{ウミ}に^シて^ハ念^{ネン}す^ルに^ハ文^{モン}殊^{ジュ}又^{マタ}の^ノ結^{ケツ}と^シ
此^{ココ}世^セ界^{カイ}と^シて^ハ西^{サイ}方^{ハウ}に^ハ阿^ア鉢^{ハツ}陀^ダ佛^{ブツ} 海^{ウミ}
に^ハい^ハれ^ハけ^レけ^レ海^{ウミ}に^ハ取^クら^レ海^{ウミ}に^ハ
下^ゲん^ンら^シま^シよ^ク念^{ネン}す^ルに^ハ大^{ダイ}聖^{セイ}文^{モン}殊^{ジュ}法^{ホウ}照^{シャウ}禪^{ゼン}
師^シに^ハ留^{リウ}れ^ハあ^リの^ノ結^{ケツ}に^ハ事^ジ也^ヤと^シて^ハい^ハく
此^{ココ}を^ハ諸^{ショ}教^{キョウ}に^ハあ^リけ^レく^ハ修^{シュ}せ^ルに^ハ法^{ホウ}
門^{モン}也^ヤと^シて^ハわ^カる^ルに^ハ海^{ウミ}に^ハい^ハく^ハと^シ

あり念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ念^{ネン}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
佛^{ホウ}法^{ホフ}を^ハ務^ムめ^ルん^トす^ルに^ハ法^{ホウ}宗^{シュウ}に^ハ学^{ガク}者^{シャ}難^{ナン}破^ハと^シ
を^ハす^ルに^ハ人^{ニン}に^ハ不^フ信^{シン}く^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}と^シて^ハ廢^{タイ}す^ル
に^ハい^ハく^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
年^{ネン}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
善^{ゼン}神^{シン}海^{ウミ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ
念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハ念^{ネン}佛^{ブツ}の^ノ行^{コウ}に^ハあ^リま^シり^ハと^シて^ハい^ハく^ハ

い海うつこりるま〜いんや書智れ道
借在家の男女のら〜い〜念佛とす
小りて法相三論と隠後〜天台花嚴と
廢了事り〜い〜念佛とす
して井〜い〜の〜い〜宗と興
隆す〜い〜念佛の業と廢
〜い〜法宗と
と色り〜い〜い〜い〜い〜

損いりすや法宗のあり〜い〜南
都山京の学老兩部れ大法と〜い〜本
寺本山の禪徒百千の念佛せり〜い〜由
〜い〜本業と〜い〜い〜い〜い〜
法とせんとす〜い〜佛法と廢せり念佛と
れ佛法小り〜い〜い〜席根の善と〜い〜
て師子よ〜い〜い〜い〜い〜餘行
と辯〜い〜念佛と諍せん〜い〜い〜逆

なりきり不淨ふり苦なり快師子
害なり快んま色よりれらる死す下りて
謗す下りす下りて其縁に下りて
佛法也そいへ偏執下り事なり是像法史
疑經亦いへ三学乃行人たひり毀謗
て地獄いり事なり此なり下りて又
大福いへいへ自法を愛深下りゆり他念毀
苦す是の持戒乃行人也地獄の台也
下り

下りて下りて又善導和尚のこれなり

世尊說法時將了 慇懃付属跡陀名
五濁増時多疑謗 道俗相簡不用聞
見有修行起瞋毒 方便破壊競生怨
如此生盲聞提革 毀滅頓教永沈淪
越過大地微塵劫 未可得離三途身
之なり念佛と修んりれ餘行とせり
今より下りて下りて下りて下りて

うしよくさゆあり餘行と修せんれば念佛
なりううん又念佛の辛誓り下ふ
ゆありするは海真言止觀の窓の
い念佛の行なり一向專念の床
ありは法餘の行なりはなりは我を偏
執の心なりを義理とすたはたのく
是非なりは住して會釋となりわふ
道正義ふふんやふふふ念佛意なり

しありはさ小又難者のい今來は念佛
者ありは義とす思業はたせり是
赫施の辛願を信せり也救過をさるは
一念の法生をさるは行業とす一念十
念ありはね下りはは救過とすは
思業とすは法生とすは行業とすは
小徳思をさるは行業とすは
志ありは釋尊の說法にせりす善

導の釋にしはるるなりかたよく存ん
之れ趣して諸佛の御心うたふなり
別して六跡法の本軌よりあふつるを六逆
十惡の衆生の一念十念いふてかれを
淫生すといふ六逆觀經のわらうある文也
そとて六逆をいかりて十念をさすは十
念となりて一念とせしむるは
ふし十重をきりらて十念をきりて八

輕をゆるりて八願とせしむるは
二の補ふところ也なり是れ行をい
はすところなり戒行をきりらて浮囊を
いかりて身イの威儀イに油鉢ユといふ
ゆけすは行をて成就せしむる事あり
願として圓滿せすとす事ありとす
とすわらふは十重をたふすは十惡
とすすかたなりとすはす一人と

して留事の戒行を具しし者あり

諸惡莫作諸善奉行三世の徳佛乃通戒

也善を修するはこれ善趣の報をえ惡を行

するは惡道の果に感ずるは此の因果の

道理をいふはまゝなり

てふはわいしす志れしはふとてふは

惡業とてりし録を悔きて念佛を行生

生を期すし惡人をすてりしは善人

かんそとてりしん川を渡らるるは奉獻

せしとてりし業に悔きて改せりしは改

一念十念ありてこれ四生すしとてりし

釋尊の金言也觀經のわらりし文善學

和尙れ釋よとてりし下至十聲等定得生乃

至一念无有疑心故名深心とてりしは

住坐卧不問時節久近念不捨者是名是

之業順彼佛願故とてりし信此一念

又しゆるるべき行の形をけししてす
しよ也。祚法乃平釈を信して念佛の切
より運心するいづくか人々願力を信
せんとふたしくやする博地の元ま祚法
おしゆるる事他力よりいづく道なり
しるす事下は十方世界の諸佛善逝
穢土の衆生を引導せん。たふ穢土に
て正覚の心を淨土にて正覚となりて

志るも穢土の衆生を引導せん。釈を
て移りて穢土にて正覚をまむ。隨
類應同の相をとりて極よのりか
らすしてよく涅槃よりおま報佛報よ
して地上の大菩薩の取居也。未断或の元ま
はせらるよし。事なり。す。は。り
淨土を莊嚴し佛を修行す。元
位はとて造悪不善力をか也。輪轉

の期あらんどもあらんどもんたはり
うれ三賢を證し十地をくまらる久行
の聖人深位乃菩薩は六度万行を具足し
諸波羅密を修行してじまろくといふ大
悲の幸意に何んか乃修因感果は
と大慈大悲の沛心のうらゝ思惟して年序
はるるよつりて星霜お初まらるる

と善巧方便とらして思惟し修り
心うらゝ思惟とて淨土に居りて
博地底下の衆生を引導すし衆生
乃業かひのてじまろくといふくまらる
我須は衆生のきらゝ永劫乃修行とて
祇の善行をくまらして万行万善は果徳圓
満し自覺を他乃覺行窮満てん成就
せんといふ徳無漏の一切徳をんたはる

号として衆生よする一一人衆生りてな
おろく信として一福念せばわが釈よして
じよく事として一各号をさるるはし
よき刹釈たして一これ釈成就せし佛よ
なり一さう極也一此の釈よ一満足せず永劫
代悔るもわき正覚として一さう一未来思
せの衆生極慢懈怠にして一迷いおろく信を
たふし事として一佛二佛のよ此給らんよ

とうらうかうかふ心なふん事と縁つて
なれし十方諸佛よしくくぶの釈よ稱揚
せしれそつてんとしていしく才十七の釈よ設
我得佛十方世界无量諸佛不悉言嘆稱我
名者不取正覚として極いさうさい才十八釈
の乃至十念着不生者不取正覚として極り
されし補元量の諸佛よ稱揚せしれそつ
つえんとして極り願成就するゆい六方に

たのく恒河沙のりけりして廣長舌相
と出て何れ秘く三千大千世界たりと
てこれたけりく此の事とゆるりて證誠
一終り善導の道を釋しての終り
此の證いりてしるす事終る此の善導の諸
佛のの終りていりて終りて終りて終り
川井水はよりのすて自然にやゆきみ
すらんこの終りていりて信せけん地はこれ

り十方恒沙の諸佛の御まてんやうを
信す一佛二佛の御まてんやうを
しりていりていりていりていりて
大地微塵劫を超過すといはれ三途の
身をりりていりていりていりて
しりて元三思趣不更思趣乃至念佛往生等
の願を遂げすといはれ十八願ありてこれなり
一川として成就し終る願を三願として

なりんり又り終りといふ
これ願をうとふとや定十八願の跡地
善逝正覺と十劫とこれ終り六方恒沙の
諸佛如来言相を三千世果との終り定
これと信せるとや善導の信と釋
ての終り化佛報佛若一若多乃至十方に
遍していり終りや一ととて終り
初十方とたといふは事虚妄なりと

終りると畢竟して一念退のふとに
こりとの終りといふ終り行者より異
学異見のちるふとやとこれとや妙
るはかみんや報佛化佛のれ終るとやと
こり行をすといふはたのふとといふ
は終ると智慧をけまの聖教をいひ
はあといふ一財寶をば布施を行は
よらといふ一波羅奈國よ天子なりと

大施太子と申さるる貪人坐わす道とそら
ひし地よりりくめたる地出でてわと
へ給すまゝふいけしをも海川に流る
つゝうゑおしよま子ら中より如意寶珠
ありとて海よゆきりてそら
たゞたゞ然れどもえんとらひく龍宮へ
ゆき給す龍王たゞらわやして
うせの人にいはんといふ身つじひ

たゞれゆくまゝそらゆつりたるふらたり
給す心より何事なりとて給ふとそら
子の給り閻浮提の人介川にきて
しんじ事ありし玉のそら中れ寶珠
とまらんまらしよとそら世との給る玉のい
もく志るむ首ありとて海りてわら供養
とらけ給うけらたゞ然れども川にえと
太子七日坐すまゝ然れども龍神と

らりたりのききくつるす風をら平國
ありいにたりぬをいにあくの龍神
をけいていもくふれむ海神のたうせ
あ然り也一てうらうらうさくさくさ
海神へありてお子の西よよこりて
いよ君ふ海邊なるむ我忠接りそ
の建いんを接しよお子うしとんと
接ふよういりてうもわお子か

あまそりいもくつらんらそたが
さすんがうそつらんよ海神お
てウひもいもくつらんらそあうら
今れうた日然に接しよとんらや
せれがさちそそんらんらおりつて
すうすよお子の接く鬼愛力と
こいれをたがれうらんらおり生れれ
はくくもいもくつらんらおりと

後り^カ河^カ乃^カ水^カ火^カ然^カに^カけ
て^カ跡^カ施^カ奉^カ願^カの^カ寶^カ珠^カは^カえ^カり^カて^カ是^カの^カ龍^カ神^カ
の^カ心^カを^カた^カり^カて^カし^カの^カ心^カを^カ異^カ学^カ異^カ
見^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カし^カの^カ心^カを^カ異^カ学^カ異^カ
海^カを^カく^カみ^カて^カは^カ六^カ欲^カを^カ禪^カの^カ法^カ天^カを^カり^カて^カ衆
一^カを^カみ^カて^カは^カ信^カの^カ心^カを^カ疑^カ謗^カの^カ難^カ
を^カく^カて^カは^カ六^カ方^カ恒^カ沙^カの^カ諸^カ佛^カを^カり^カて^カと
一^カ後^カに^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ大^カ海^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ

心^カを^カた^カり^カて^カは^カ龍^カ宮^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ如^カ意^カ寶^カ珠^カ
と^カて^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ疑^カ難^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ
つ^カら^カぬ^カ謗^カ家^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ奉^カ願^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ寶^カ珠^カ
と^カて^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ閻^カ浮^カ提^カ
一^カて^カ貧^カ窮^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ
そ^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ博^カ地^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ
一^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ
寶^カ珠^カと^カて^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ一^カの^カ心^カを^カた^カり^カて^カは^カ

信心のうこよたきよと一すふりらと
らんきんねのすこやよ深信の年と七
誇りたきんねのすこやよ深信の年と七
とてある事なれしいうる跡地十念
の悲願とたうして十方の衆生に措
取一給ふいなるる六字の若号とを
たう三輩の性生けけん永劫の修行
とてしんきんねのすこやよ深信の年と七

已給て超世の悲願又なんの断る心とを
未活ありけにたり給ふけしと一往
生をうこよたきよと一すふりらと
給ふ一やとけ又往生をうけゆ一や
とけ往生にけりけの正覚にけりけ
の正覚にけりけ往生より若不生者の
らうとてしんきんねのすこやよ深信の年と七
はうとてしんきんねのすこやよ深信の年と七

示或人詞第二

一云と云々此西よじふ一云云云
うーうーすうううううううううう
たはくうらく井さんいこくらぬんよ
色驚く西いじふ一うーゆーい
便宜何之事ありて西をうーうーす
ふる何は心あらうよううーう西也
何跡施るけりたりうーいこ也

河由そじううぬとこをた少西
一やううまうううう西うーじうそ極樂
とたぬ人うううううううううう
一孝養の心をそりて然たりうー
色うん人の川阿跡施るけりうう
うすうーうううう人うううて性生
い念佛する事いこふううう父母
いそきうううう河邊うう念佛一切

何れもくもく父母は極樂へしるをせむ
一母て病をも減し母は病とたす
はれらくしるを病とせむんす
なりを唐土よ妙雲とていへん
うして父母よせしるを二十年と
り念佛して父母よせしるを此獄の
告げしるを極樂へしるをけり
一善導和尚の法生礼讃より奉願といへ

いへ我成佛十方衆生稱我名号下至十劫
若不生者不取正覺彼佛今現在世成佛當知
本誓重願不虛衆生稱念必得往生

おん文をうりよらりし心もくもく
眼もくもく跡施の奉願とて
極樂世帯とて莊嚴しをて
してわが名とて人わらと御ん
いみじくも老てわが名と稱するもの

とらりしつゝあしをりたりと一掃
一合も何跡絶まじしやせすも
ちりしは攝取れ光明はつち力強そ強
事行くて佛終れ来迎はしやまじり
ふの文堂十八願のほろこり肝なり神なり
百十八字よじしといふ事公れゆり
力切もさよりキとも何してすも
諸を乞ひて不浄の力そ持佛堂は

まゝの世のまじりあまうやゆ
いそろ事そ何しや上世
ありくの大菩薩おとやゆり
けまら力まじりなり何なり
まゝ三巻の諸天しよとて
いよいんやまじり又川
たろき卒頓とろしなり
一みよとんとすり自カ

と云事おしめしぬわき海一と云い
事なりゆきくみこころもなほ
しめしりそりしとら井師とてせり
しう津古三部經より唐土日本の人師
の御作の中とほこり記事とて
と心よりせてつぎよめより一と云
んそと云いしう事なり一と云
て三惡道よりらんするもをり一代聖教の

中よありし記事五逆十惡の病人の
縁終の一念十念よりて来迎あり
向事ありしと云井師みききせ
にりしと云いしと云佛の縁終
れかとおして罪滅し来迎し
ゆらんたり奉願のしと云いし
かこれに信して漸念佛のし
とてしと云いしと云念佛者と云

わふうーこく

津戸三良ツト（ラウ）はるに法也事 才三

は又よりをけ給りぬ念佛の事た

問トは進シいんシはたしシなりシなりシなりシなりシ

なりシは給シ之シをシ者シなりシなりシなりシなりシ

しなりシは給シぬシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

問トのふシなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

なりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

い事シなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

給シりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

福コ世シの事シなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

なんシとの福コ生シをシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

いんシと問トひシなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

くシ生死シをシなりシなりシなりシなりシなりシなりシなりシ

色シろれシ仲シ小シのシありシなりシ生死シなりシなりシなりシ

道ミチハシ無シ樂シ又シ生シ生シするシなりシなりシなりシなりシ

かたひくこと事也。あまのけしき衆生を
してそ^ニ生死を^シて^ス。務^ニ後^ニ（^ニ）^一の^ニ心
志^ニ小^ニ極^ニ樂^ニ。性^ニ生^ニ行^ニ又^ニ行^ニく^ニは
り^ニ心^ニも^ニし^ニれ^ニ中^ニは^ニ念^ニ佛^ニして^ニ性^ニ生^ニす^ニ
り^ニ因^ニよ^ニば^ニ行^ニの^ニ心^ニも^ニた^ニ事^ニす^ニ
何^ニら^ニり^ニれ^ニ極^ニの^ニ念^ニ佛^ニの^ニ道^ニ施^ニの^ニ一切^ニ衆
生^ニの^ニ下^ニり^ニ身^ニつ^ニり^ニあ^ニる^ニ念^ニ佛^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ
願^ニの^ニ心^ニも^ニ道^ニの^ニ性^ニ生^ニれ^ニ業^ニも^ニり^ニて^ニ念^ニ佛^ニ

よ^ニま^ニく^ニ事^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ性^ニ生^ニせん^ニと^ニあ^ニり^ニ
念^ニ佛^ニを^ニ心^ニも^ニせ^ニち^ニと^ニし^ニ心^ニも^ニい^ニん^ニん^ニや^ニ又
寂^ニ下^ニの^ニ心^ニも^ニ法^ニ門^ニを^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ智^ニ恵^ニと^ニあ^ニり^ニ
お^ニ念^ニ佛^ニの^ニ心^ニも^ニ何^ニる^ニと^ニして^ニ性^ニ生^ニす^ニ
念^ニも^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ
念^ニも^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ
念^ニも^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ
念^ニも^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニの^ニ心^ニも^ニ一^ニ本^ニ

願ニシテとシテ生シテ死シテをシテ行ハシフルハ
一ニシテて寂シケ下レルハ也ナリとシテ云フルハ何カん
とシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
念佛ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
又ハ念佛ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
池ノ奉ル願ハ行ハ成リトシテ云フルハ何カんト云フルハ何カん
何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
性ハ生ル行ハ業ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん

二ノ行ハとシテわカらズとシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
よハ念佛ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
乃ハ此ノ百ノ人ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
千ノ人ト云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
信ト伸ルとシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
修ト正ス業ト文トとシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
とシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん
とシテ云フルハ何カんト云フルハ何カんト云フルハ何カん

一又專修センシュ又マタ此ココにて五種ゴシュの專修センシュ正行マウと云
事コト有り此ココの種シュれ正行マウ又マタ正助行マウ
と云トその正業マウと云ト五種ゴシュの中に第壹ダイの
念佛ニホフ也助業マウと云ト此ココの中の正マウの行マウ
留ル變ヘ定テイして淨ジヤウ古コに往生ウシヤウせんと思オモひ専セン雜ザク
二修ニシュの中に專修センシュの教ケウよりして一向イウヤウ念佛ニホフと
す一正助マウ二業ニゴウの中に正業マウのすくよりして
ある心ココロなくして第壹ダイの禱イタダキ名ナ念佛ニホフとす一三

と申マウ三サンの一イチはくりに此ココに禱イタダキある心ココロ強ツヨクと
云トのらぬと云ト念佛ニホフの事コトと云ト事コトに云ト
え何ナニの事コトと信シンじて申マウひつりひヒ件ケン
人の善導ゼンドウ和尚ウシヤウと申マウ人の何ナニの何ナニと云ト
ひの何ナニ何ナニ施セ施セりけの化ケ力リキと云ト申マウ一イチ
ひが是コノに不フしと云ト申マウを給キタマへん事コトと云ト
ひの事コトと云ト申マウと云ト信シンじて念佛ニホフ
はつと云ト申マウ也ヤと云ト申マウ給キタマへん事コトと云ト申マウ文モン

まじきくひなりし文字とまりのりぬ
とれそなき心なりはうひてほ生^ま生^ま
すすりの性^{コウ}生^{シヤウ}やいよそよふ引^ヒに
らうれとれしえうまをそす
之のよひ也といふれよまを給^キて
中くくりくちまを給^キわや月^{ツキ}らわ
りんとして何^{ナニ}も事^{コト}もあそよとあは
えひひうのよと陽^{ヤウ}に難^{ナン}答^{トウ}を——^カ

してとまうし時^{トキ}よのそそひひなりしこ
はらとふんすん書^{カキ}て月^{ツキ}をてひん
し何^{ナニ}もあそよとくく^ク御^ミは
かひを早^{サウ}暁^{キョウ}らわうい^いをそそ
らそ給^キ給^キひひそり又念佛^{ニホフ}す
とあはせらまよそ性^{コウ}生^{シヤウ}にんう^ん何^{ナニ}
しんをまよりの御^ミ念佛^{ニホフ}くく
とせよあはせらまよそ道^{ミチ}心^{シン}をうん^ん御^ミ

そらしよりの海一きくく小川あて
とあると^{ワシ}生一せん人^{ハシ}の志^{ハシ}
以乃より終りて^{ハシ}海一^{ハシ}一^{ハシ}一^{ハシ}
とくくと人あけを^{ハシ}指い^{ハシ}て^{ハシ}て^{ハシ}
下人^{ハシ}と不便^{ハシ}よ^{ハシ}を^{ハシ}成^{ハシ}く^{ハシ}一^{ハシ}一^{ハシ}
時よ^{ハシ}ら^{ハシ}り^{ハシ}百^{ハシ}千^{ハシ}と^{ハシ}て^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}時^{ハシ}
と^{ハシ}ま^{ハシ}い^{ハシ}の^{ハシ}海^{ハシ}一^{ハシ}ま^{ハシ}の^{ハシ}益^{ハシ}乃^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}
と^{ハシ}く^{ハシ}い^{ハシ}て^{ハシ}た^{ハシ}や^{ハシ}に^{ハシ}早^{ハシ}晩^{ハシ}よ^{ハシ}一^{ハシ}と^{ハシ}い

て^{ハシ}と^{ハシ}を^{ハシ}指^{ハシ}え^{ハシ}に^{ハシ}い^{ハシ}る^{ハシ}色^{ハシ}い^{ハシ}う^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ハ^{ハシ}
真^{ハシ}字^{ハシ}惟^{ハシ}字^{ハシ}に^{ハシ}い^{ハシ}る^{ハシ}と^{ハシ}終^{ハシ}る^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
と^{ハシ}乃^{ハシ}海^{ハシ}一^{ハシ}と^{ハシ}終^{ハシ}る^{ハシ}文^{ハシ}と^{ハシ}つ^{ハシ}ら^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
事^{ハシ}と^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}と^{ハシ}す^{ハシ}と^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
と^{ハシ}乃^{ハシ}又^{ハシ}中^{ハシ}く^{ハシ}何^{ハシ}の^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
と^{ハシ}い^{ハシ}て^{ハシ}子^{ハシ}細^{ハシ}い^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
と^{ハシ}い^{ハシ}て^{ハシ}中^{ハシ}と^{ハシ}を^{ハシ}指^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}
と^{ハシ}り^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}と^{ハシ}道^{ハシ}心^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ん^{ハシ}

いふ道理百千萬わすとも色より心は志
殿道理ありていふ事なりし由を
ぬ事ありし中志ありくはいふ事
とよきこと先んよ念佛いふ事
わりありし由はかち忘る事ありし
はとよきこといふ人はいふ事
もと元益の事をも忘る事ありし
と御文にいふことありし事ありし

十月十八日

た月つうちく事いふ事諸川の福小の池
又逃く事ありてけ給りぬ事あり
専修念佛の人のふありて死事あり
いふれ一團は三十餘人なりし由あり
やふありしよと京邊の人のけ給りぬ
まゝいふ事ありし事ありし事ありし
とありし事ありし事ありて専修念

佛とすり人ありていふ事そて丁修作
道^{ミチ}禪^{ゼン}師^シあり平列とゆふとありてそ
一向^{イツク}念^{ネン}仏^{ブツ}地^チとゆふは專^{セン}修^{シュ}会^{カイ}併^{ヘイ}三十
餘^ヨ人^ニありけりてそはゆふといふは
又^{マタ}く^クや^ヤり入^ニ道^{ミチ}を^{シテ}ん^トれ^バう^チて
そ^ノ心^ヲを^シて^ハし^ト時^ヲを^シり^テ結^{ケツ}生^シま^ス
人^ノた^リく^ハづ^キい^ハま^スう^チに^ハ縁^{ヰン}を^シ
事^ハま^はる^人の^才ち^ひに^まる^るれ^ぬ

事^ヲそ^ノ心^ヲ子^シ細^シと^シて^ハ結^{ケツ}ぬ^れん
と^レ功^{コウ}は^せら^れん^ハ事^ニて^ハ作^ス
と^ハゆ^ふり^とり^ハ縁^{ヰン}結^{ケツ}契^{ケツ}て^ハ時^ヲを^シり
と^レ事^ハし^ては^ハる^ハと^ハ專^{セン}修^{シュ}の^念
ん^トは^ハら^れち^と行^ハり^ハけ^りし^ハり^ハ付^ク
心^ハを^シり^ハ無^ム智^チの^人に^ハり^ハ縁^{ヰン}
こ^ノ念^{ネン}佛^{ブツ}と^ハす^ハし^ハ事^ハそ^ノ心^ヲを^シり^ハけ^り
い^ハり^ハ事^ハり^ハく^レ僻^{ヒカ}事^トに^ハり^ハ阿^ア旃^{セン}泥^ニ

ありけり。清らといふ有智元智ともあるに
す持戒破戒をさうして佛前佛母の
衆生ともさうして在家出家の人共に
さうして念佛往生の誓願の平等の意
悲し住してたうして終いする事じつと一
人をさうするにゆきくひある也。はまは
観无量壽經の佛心と者大意悲是なり
と記しての善導和尚の文をうけくはれ

平等の慈悲とありてありけり。一切を攝す
と釋し終る也。一切の事はいろいろして
とく人かへん釋迦のすは終ると愚人
善人愚人といふは念佛すは往生す
すは終る也。念佛往生の願をこれ
弥陀如来の本地の誓願なり。餘の種は
行々本地のらるゝは釋迦如来の種は
縁にいろいろして終る行はる也。終

いを教すくくハ釋迦トせよ其後ハ
跡施乃奉願ト云んと功アリ先ハ心ヲ
以テト衆生乃枝縁人ト云くハ心ヲ
法ハ白ハ餘ノ種ニ此行ト云ハ此後ハ
随接乃法ナリ此ノ自ラノ心ハ
すんも念佛ハ跡施ト利生ノ奉願釋
迦ト云ハ世乃奉徳也餘ノ種ニ此後ハ
ハ世ハ無智乃ト云ハ世ハ心ヲ
ハ

又要文乃事書て下ツセハ一又其
乃入道ノ文ハ世ハ一其乃世ハ
ニ事ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ
ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ
ノ便宜ト云ハ云ハ云ハ云ハ

九月廿八日

西川ニテハ先ト云ハ云ハ云ハ
ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ

事はとくはしりしに後より當時
をゆへ今日何すたすしと事ある
にありまるといふぬよしとありは風の
より正月に割時念仏と十日まで
しよましく風とひれと二月十日あり
よりすうはりかきと後にはありは三月
の十日と十日にありはしよましくと
おひひてた御井とひしと事

しりひてあやんとしよにあり又男の
しよひまんとしよしよ今日してと
やまひまかといまひと又といふ
いふよりしよとありは後事と也
醫師乃大としよしよいまひと志
湯とゆと又後と唐れとありと
かんといとと氣とやとありはあり
と後事と事しよとた右たしよのひと

なんど信らばよくいころふあつたよ
さけど坐くは福よなきといふ所事にて
之れありなんとする御事はいそぐひ
いやくにて念佛してきこひ往生云
いなんよきそくたるさびりもにて
も先何より念文よいやくくくく
とひ

宝月廿六日

はくくよいよあまの命をたじし
療治よい何い所力なりし
佛中を給りんをあらり下巻力用
心抄にたりはえ何も

示或女席法語第四

念佛行者力なりし
往生と称えい念佛すし
るすらすいせはと給り

